

(抄 録) ○擬雌雄同體の橈脚類 ○房州産ヒメボヤ ○ヤスデ類に寄生する新簇蟲 ○日本産姫蜻蛉亞科 ○日本産ハムシ類 三六

●擬雌雄同體の橈脚類

BEUTER, H. — "Zwei Fälle von Pseudohernaphroditismus bei *Diaptomus vulgaris* SCHMEITL." („Z. Anz." Bd. XLIV, No. 12, 1914.)

著者の研究したるは *Diaptomus vulgaris* SCHMEITL. と
いふ橈脚類の標本二個なるが、第一の標本にては、頭胸
部、右方第二觸角及第五對の脚の形狀は全く雄の特性を
現はし、全腹節數がたゞ四個のみなるは、雄の五腹節と
雌の三腹部との中間的形質なり。型的雌性生殖器あり。
兩側の輸卵管は卵にて滿ち、雌性生殖門の開口存し、尙
五個の精子束の中、二個は該開口部に附着し、他の三個
は第一腹節上即ち生殖節上、稍々下方に附着せるを見る。
腹部の後部は全く雄性的なり。第二の標本は、頭胸部、觸
角、第五對の脚及生殖器も雄性的なるが、腹部は全く雌
性的にして、常態の雌に比して僅少の差異あるのみ。但
し雌性生殖門の開口に存せずして、腹面には正中線を走
れるキチン質の梁狀物にて分離せられたる二個の大なる
凹陥あり。其左方のものは右方のものより大にして、精
子束の輸出孔の如く見ゆ。恐らく、雌性生殖門開口の原基
の一半が雌性生殖門開口に變せしものなるべし。(寺尾新)

●房州産ヒメボヤ

丘淺次郎。——新著紹介欄『新着論文』參照。

著者の房州館山海五一六尋の深さより採集せる單ホヤの一種は、長さ一
二耗、巾七一三耗のものにして、*Agnesia* 屬の第三番目に發見せられたる

種なり。著者之を *Agnesia himboja*, nov. sp. と名く。(永澤六郎)

●ヤスデ類に寄生する新簇蟲

石井重美。——新著紹介欄『新着論文』參照。

著者は、岐阜金華山より得たるヤスデ *Fontaneria coarctata* Pocock の
消化管を検して多數の多室性簇蟲を得たり。是等は尾部に螺旋狀縱條を有
する新型のものにして、特に新屬を設け *Spirosoma caudata*, nov. gen. et
nov. sp. と名くべきものなり。(永澤六郎)

●日本産姫蜻蛉亞科

中原和郎。——新著紹介欄『新着論文』參照。

著者の序言によれば、從來知られたる日本産姫蜻蛉亞科に屬する昆蟲は
唯五種に過ぎず。それに對し、著者は、更に十七種を加ふるを得たり。就
中新屬二、新種十五あり。尙著者は此亞科を分ちて新族を置き、*Neurothir-
ni*, *Hemerobini* の二となさん事を提議す。(永澤六郎)

●日本産ハムシ類

内田清之助。——新著紹介欄『新着論文』參照。

著者の日本産鳥類より發見せる *Phrynosomum* 屬食毛類合計六種、内新種
三あり。

P. vulturium. *P. japonicum*. *P. marginati*. (永澤六郎)

●新著邦文論說鈔

(新著紹介欄
『新着論文』參照)

(三一) 横川定。——肺「ヤストマ」の最終宿主體內移行路

著者の犬並に猫に施せる試験結果によるに、肺「ヂス
トマ」の最終宿主體內に於る移行路は次の如し。(前號本
幸庵氏論說抄錄參照)即ち幼蟲は宿主の消化管内にて被囊を脱し、腸
粘膜内に穿入し、早きは二十四時間以内、遅きは四十五時

間以上を経て腹腔内に出で、隨時横隔膜を穿通し、胸腔内に侵入し、一定時期を経過し、肺表面より肺實質内に穿入し、寄生性囊腫を形成するなり。而して其、腹腔より胸腔に移るは、該幼蟲の自發的運動によるものにして、單に一定の方向に運動すといふ丈のものにあらず。而して其腦内乃至眼窠及眼瞼内に寄生するは、頸動脈周圍の緩組織内を上行するによるものにして、元來本蟲は肺臟固有の寄生蟲といはんよりも、寧ろ一般緩組織内寄生蟲と稱すべく、諸種の緩疎なる組織内には、何處にても充分發育成長し得るものなるが、唯肺以外にては、營養の充分なると、排卵の自由なるを得ざるが爲に、死滅するものなるが如し。

(三三) 安藤亮。——肺「ガストマ」の研究。

前號本項に紹介せしもの續報なり。本報告に於て、著者は、六種の動物試験に成功せるを述べ、又其等動物體內に於る移行路の横川氏のいふ所に一致せるを解剖學的並に組織學的に證明せり。而して著者によるに、「ガストマ」幼蟲の試験動物體內各所に現はるゝに要する日數次の如し。

	腹腔内	胸腔内
南京鼠	試食後三十三日以内	——
白鼠	七日以内	九日以内
「モルモット」	九日以内	十七日以内
家兎	二十日以内	——
猫	十四日以内	——

(抄録) ○新著邦文論說鈔 (雜錄) ○肺臟「ガストマ」の中間宿主の種名(第一報)

犬

三十七日以内

三十六日以内

(永澤六郎)

雜 錄

●肺臟「ガストマ」の中間宿主の種名(第一報)

蟹が肺臟「ガストマ」の中間宿主たりとは、中川幸庵氏の臺灣に於る發見後、安藤亮氏が復た岐阜縣下に於て確められたる所なるが(本誌前號抄録欄參照)、頃日、吉田貞雄氏も、大阪市外、稗島に於て、一種の蟹に肺臟「ガストマ」の幼蟲寄生せるを發見せられ、其標本を理科大学動物學教室に郵送せられたるを、飯島教授の好意により檢査するを得たるが、その蟹は總て *Sesarma dehaani* MILNE-EDWARDS に屬するものなるを知り得たり。其標本は今手許になれば、此蟹と同種に屬する三崎産の標本を代用して、こゝに簡單なる記載と寫生圖とを出す事にせり。此標本は吉田氏の標本とは多少の差異あれども、左迄重要ならざるなり。蓋し、變異に富む *Sesarma* 屬中、本種の如きは特に變異甚しきものなればなり。

頭胸部は殆ど正方形に近く、腹面には、規則正しき無數の小區劃存在して恰も鑪の面の如き觀ある所を見るべく、又、第三顎脚は、閉鎖しても尙菱形の空所を残すを